

園田学園女子大学

園田学園女子大学短期大学部

いま、人と地域と大学がつながる

『そのだ』の地域連携

これまで

そして

これからも

私たちは
教育を実社会とのつながりの中で
推し進めています

経験を通して学ぶ教育を
私たちは
経験値教育とよんでいます

私たちは
地域に支えられ
そして
地域に学び
地域に貢献していこうとしています

これまでも
そして
これからも

私たちは
地域に根ざした大学として
地域を大切に
幸せな社会づくりに貢献できるよう
取り組んでいきます

園田学園女子大学
園田学園女子大学短期大学部

『そのだ』の地域連携

文化・教育

1. 近松研究所の地域連携（付図書館）
2. 総合生涯学習センターの事業
3. 公民館における講座の企画・運営
4. 祭りで地域を元気に！
5. 未来の情報教育をデザイン
国体尼崎事務局のボランティア
6. 養護実践研究会Smilesの活動
7. わらべうた遊びの普及活動
8. Web版『図説 尼崎の歴史』の制作
9. 高大連携事業
10. スクールボランティア活動

環境

11. 庄下川アメニティプロジェクト
12. 水辺まつりの企画・運営

健康・スポーツ

13. 地域のパートナー「まちの保健室」
14. リーフレットを利用した健康づくり
5・5フェスタにおける食育の取り組み
15. 園田学園テニスカレッジ
ソフトボール教室
16. エイズを通じて生と性を考える

国際交流

17. 地域に支えられる国際交流
18. 国際交流事業

商業・その他

19. 創作和菓子「橘の玉依姫」を考案！
20. 尼崎市尾浜地区の活性化
尼崎あきんど倶楽部との連携

近松研究所の地域連携(付図書館)

連携先：尼崎市・福井県鯖江市・高槻市・近松記念館等
本学：総合生涯学習センター

近松研究所は近松門左衛門を顕彰する地域・団体等との連携による地域振興を業務に掲げており、本学での講座の開催や展示等をはじめ、関係団体の近松顕彰行事にも積極的に協力、支援・指導をしております。例えば、「近松祭」(毎年11月最終日曜に開催)への協力、近松記念館資料室の展示ならびにその解説等、あるいは講座等開催に関する助言や講師派遣、演劇芸能関係の調査協力、近松を顕彰する演劇等の制作もしくは制作協力等、近松顕彰を要として、多彩な連携に取り組んでいます。

■講座の開催等

毎年1学期・2学期にそれぞれ10回ずつ、研究員が担当する近松およびその周辺の演劇芸能に関する講座を自主開催する他、各種団体等主催の講座に出講し、近松や演劇芸能により親しんでいただけるように努めています。

■近松記念館資料展示室の監修等

(財)近松記念館資料展示室は、平成20年春にリニューアルオープンいたしましたが、その際に展示品の陳列ならびに展示品解説を当研究所が担当し、また解説ボランティアを対象とした講座にも出講し、来館者の展示品理解の一助としています。

また、福井県鯖江市の歴史資料館に「近松の部屋」開設の折には展示品等につき助言しておりますし、近松や周辺演劇芸能等に関する展示実施の際の各所からのご相談にも随時応じております。

■実演等への協力その他

地域・団体等の実施する演劇(プロアマ問わず)に対し、求めに応じて助言・支援・指導、資料の貸与等を行うほか、閲覧室を一般公開し(平日)、市民の利用に供しています。

付 図書館も尼崎市と提携し、在住・在勤の市民を対象とした図書の貸し出しを実施しています。

総合生涯学習センターの事業

本学は、地域に開かれた大学を目指し、社会貢献の一環として30年前から公開講座を開始し生涯学習に取り組んできました。生涯にわたっての学習機会が求められる今日、本学は先駆的大学との評価を得て、さらなる飛躍に取り組んでいます。本学は女子大ですが、公開講座やシニア専修コース、テニスカレッジなど、多様な講座に男女を問わず参加できます。中高年齢層、現役社会人、ヤングファミリー層や幼児など、さまざまな年齢層の方々が本学で学ぶ姿が見受けられます。

■公開講座

いち早く昭和54年に開設した公開講座は、現在では年間約130講座、受講者数1700名の規模となりました。文学、歴史を中心とした教養・文化、芸術・創造、健康・スポーツ、英・仏・中・韓国語、資格・検定等キャリアアップ講座を、年間2回(前期・後期)に分けて募集・実施しています。都会とは思えない豊かな緑に囲まれたキャンパス、学生食堂や図書館の利用も大きな魅力です。



■移動講座、講師派遣

地方都市のように近隣に大学がない市町村では、本学主催の移動公開講座を行っています。また、地域行政と協力・連携した講座の企画や、本学からの講師派遣も行っており、地元の方々から喜ばれています。



■シニア専修コース

公開講座よりもさらに学びを深めたいとのニーズに応え、平成14年度にシニア専修コースを発足させました。現在の文学歴史学科、国際文化学科に加え、平成21年度から情報学科開設を計画中です。このコースは3年制の課程で、受講生は大学の講義と同様、毎週決まった曜日の時間帯に講義を受け、1年間同一科目を継続して学びます。さらに、卒業後も希望すれば「研究生」として引き続き学ぶことができます。現在は220名が在籍。受講だけでなく、クラブ活動も楽しめます。



公民館における講座の企画・運営

連携先：尼崎市立中央公民館・大庄公民館他
本学：「生涯学習論」受講生、「情報」を専攻する学生

本学では平成17年度より、「生涯学習論」受講生が尼崎市立中央公民館における「地域現代学講座」の企画・運営に参加しています。この講座は、地域課題の解決のため、住民がともに考える場を提供することを目的とし、市民と公民館職員が協働でつくりあげるものです。また、本学で「情報」を専攻する学生たちが尼崎市立大庄公民館におけるパソコン講座を企画し、教材の開発、受講者の指導を担当。神崎総合センターや小田地域振興センター等においても、学生がパソコン指導を行っています。

■「地域現代学講座」の企画・運営

「生涯学習論」という科目では、座学と地域活動を組み合わせることで学習をより深めるため、公民館の講座づくりに取り組んでいます。学生たちは公民館職員のご指導のもと、講座のテーマの決定、講師の選定、講演の依頼、案内チラシの作成・配布、講座の実施（会場準備・受付・司会）に参加しています。これまでのテーマは、「いい人いい街 あまがさき」「探せ！いいところ！私のあまがさき！！写真の撮り方・魅せ方講座」「響き合う心と心 体験・発見・和太鼓のすべて」「忙しいあなたに癒しを」。学生が最も苦労するのは、講座のテーマと内容の設定です。講義と実習・見学を組み合わせ、幅広い年齢層の方々に楽しく受講していただくことをめざしています。

■パソコン講座の企画・運営

本学で「情報」を学ぶ学生たちが、平成18年度より尼崎市立大庄公民館におけるパソコン講座を担当し、講座内容の決定、教材の開発、指導を行っています。1日の講義が終わると、受講者を対象に理解度や教え方について調査し、それをもとに次回の指導内容・方法を改善します。学生にとって、大学で学んだことをより深く理解し、受講者の立場に立った丁寧な説明のしかたを実践的に学ぶ貴重な機会となっています。



祭りで地域を元気に！

連携先：兵庫県篠山市
本学：未来デザイン学部大江研究室・短期大学部生活文化学科

平成20年4月、大学及び短期大学部は、「丹波篠山築城400年祭」事業を中心に、篠山市と「協同連携による地域貢献・人材育成事業に係る覚書」を締結しました。篠山市では、城下町の歴史文化遺産を生かした地域再生を目指していますが、本学では祭礼行事（大江研究室）や伝統的な衣・食（生活文化学科）など無形文化遺産を中心に、学生がプロジェクト研究にもとづいた提案をする予定です。無形文化遺産についての地域連携は、兵庫県下にほとんどなく、2年間の成果が期待されます。

■伝統的建造物群保存地区と無形文化遺産

篠山城下町には、武家屋敷や商家など古い町並みが残されています。それらの建物は伝統的建造物群保存地区の指定を受け、保存されています。しかし、400年間そこで生活をしてきた人々が守り伝えた「言い伝え」や「しきたり」は、時代とともに忘れ去られようとしています。そうした無形の生活文化を掘り起こし、これからの町づくりにどのように生かすことができるのかを考えていくことが、このプロジェクトの目的です。

■文化庁の支援事業に採択

このプロジェクトは、平成20年度に文化庁の「文化芸術による創造のまち」支援事業に採択されました。この事業は、地域における文化芸術活動の活性化を図ることによって、わが国の文化水準の向上をめざすものです。これまで、教養講座の企画、古写真の展覧会、スタンブラリー、シンポジウムなど、ほぼ毎月篠山市で学生とともに活動してきました。

■「丹波篠山築城400年祭」にむけて

いよいよ21年度は「丹波篠山築城400年祭」の年です。祭礼や年中行事の発掘に加え、地域の食材を生かしたメニューの開発や町家のしつらいに使うのれんの染色など、女子大生ならではの豊かな発想で、新しいまちづくりのプランを提案できればと思っています。



未来の情報教育をデザイン

連携先：テレビ番組制作会社、コンピュータ関連企業
本学：未来デザイン学部文化創造学科 堀田プロジェクト



■幼児向けデジタルラジオ・コンテンツの制作

このプロジェクトでは、近未来に実現可能な情報環境を具体的に構築して、プロフェッショナルな評価をお願いします。平成20年度後期は、教育における映像の有効性を知り、幅広い教育的視点を身につけるために、携帯電話で視聴できる教育番組を制作しています。完成した作品は、番組制作会社に評価をしていただきます。左図は番組制作の一過程で、学生が制作しているアニメーション・パーツです。どのような作品が完成するでしょうか、お楽しみに！

国体尼崎事務局のボランティア

連携先：のじぎく兵庫国体尼崎市実行委員会事務局
本学：国際文化学部情報コミュニケーション学科 山本恒ゼミ



大学で得た知識を社会と結びつけ生かしていくために、ゼミ活動の一環として、国体尼崎事務局の国体PRボランティアを引き受けました。広報、イベント、ホームページ作成の3班に分かれ、広報班は国体の認知度調査を実施し、広報誌「国体だより」のレポーターとして活動しました。イベント班は「はばタン」人気に着目しグッズプレゼントの催しなどを企画・実施。HP班は国体のホームページの企画・作成・運営を手がけました。

活動は先輩から後輩へ3年間にわたって引き継がれ、責任を持ってやり遂げることができ、国体成功という大きな感動と、社会に参画する自信を得ることができました。

養護実践研究会Smilesの活動

連携先：近隣幼稚園・保育園
本学：人間健康学部総合健康学科 養護コース

人間健康学部総合健康学科・養護コースでは、養護教諭を目指す学生有志が、平成20年春に養護実践研究会Smilesを結成しました。地域の幼稚園・保育所と連携し、養護教諭の専門性を生かした活動を提供することによって指導方法・技術を磨くとともに、地域に貢献することを目指しています。また、幼稚園や小学校において教育支援ボランティアの活動も行っています。

■出前保健指導

幼稚園や保育所での保健指導は、食事や睡眠・排便・手洗い・うがい・歯磨き・風邪の予防など、幼児が身に付けるべき生活習慣の指導が中心です。紙芝居や寸劇、遊戯などを取り入れ、子どもたちが楽しみながら学べるよう工夫しています。私たちは、現役の養護教諭や卒業生等の指導を受けながら、教案を練り、教材を作成し、指導の練習を重ねています。



■子どもたちの笑顔で元気になれます！

幼稚園や小学校での教育支援ボランティア活動も行っています。活動内容は、子どもたちと一緒に遊んだり、トイレ等の援助を行うなど、先生方のお手伝いです。このような活動を通して子どもたちと触れ合うことで、最近の子どもたちの特徴や生活の様子を知ることができ、何よりも子どもたちからたくさんの元気をもらっています。



■地域への情報発信

平成20年度のけやき祭では、「養護教諭ってなんだろう??」をテーマに、自作の掲示物を展示しました。その中で、養護教諭の活動や私たちが日頃行っている活動の様子、大学で学んでいる内容などを紹介しました。



わらべうた遊びの普及活動

連携先：国際ソロプチニスト尼崎、児童養護施設
本学：わらべうた研究会シグマソサエティクラブ

わらべうた研究会シグマソサエティクラブは、わらべうた遊びを通して地域に貢献するとともに、学生の学びの場を地域に広げることがめざして結成されました。尼崎市内の小学生や親子を対象としたわらべうた遊びの普及活動、児童養護施設において歌や遊び、人形劇などを披露する活動を行っています。

■活動内容

わらべうた研究会シグマソサエティクラブは、平成15年に幼児教育学科の学生有志が結成したわらべうた研究会を母体とし、わらべうたを通してボランティア活動を行うことを目的として、平成16年度より活動を開始しました。



活動内容としては、夏休みに尼崎市内のいくつかの小学校へ出向き、一緒にわらべうた遊びを楽しみ普及する活動を行っています。また、学園祭の折には、「親子で遊ぶわらべうた」をテーマとして、お母さんお父さんと子どもたちが一緒に遊べるわらべうたを紹介し実践しています。さらに学園祭では、多くの方が外部からも来られることを考えて、日本ライトハウスへの寄付を行うための募金活動をフリーマーケットという形で行っています。



そして、毎年12月には、児童養護施設で行われるクリスマス会に参加し、歌や遊び・人形劇などを披露しています。

活動開始から5年が経ち、いろいろなところから、わらべうた遊びを披露・指導してほしいと依頼が来るようになりました。今後も地域に貢献しつつ、学生たちの学びが広がればと願っています。



Web版『図説 尼崎の歴史』の制作

連携先：尼崎市立地域研究史料館
本学：生活文化学科情報メディアコース 垣東ゼミ

尼崎市は市制90周年記念として『図説 尼崎の歴史』を刊行しましたが、垣東ゼミではそのWeb版を制作するプロジェクトに取り組んでいます。平成19年より検討・企画を積み重ね、20年度には学生の取り組みにより近代編のWebページ作成を行ないました。21年度より作業を本格化させ、22年度には完成を目指しています。このプロジェクトにより、学生の情報スキルの実践力を向上させ、出来上がったコンテンツが市民に活用されることを期待しています。

■学生による社会に役立つWebコンテンツ制作

『図説 尼崎の歴史』は、「読む市史から調べる市史へ」を基本コンセプトとして制作されています。上下巻全530ページにもものぼるこの著作のWeb版を作成し、インターネット上で公開することにより、尼崎の歴史に興味のある方々に有効に活用していただくことを目的としています。同時に、この取組みを情報メディアコースの学生の生きた学びの場として位置づけています。垣東弘一准教授は地域研究史料館専門委員として、ティーチングアシスタントとともに指導・制作に当たっています。詳細な設計は、試行錯誤の中で議論され進められています。学生は真剣な姿勢で時間を惜しまず、一生懸命取り組んでいます。



■大変だけれど、やりがいがあります！

垣東ゼミの学生は毎年6名程度です。Web制作に必要な知識・技術は「Webデザイン論」などで学習していますが、本格的な業務として取組むのは学生にとって難しいことです。ゼミ生にこの取組みについて感想を聞くと、「画像の処理や文章の流し込みなど地道な作業で大変ですが、自分の担当のページが出来るととてもうれしくなります。出来上がったページを早く公開して、小・中・高校生や大学生、社会人のみなさんに使っていただきたいですね。」とのことでした。



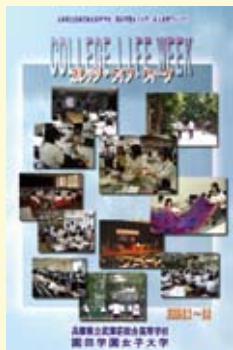
高大連携事業

連携先：兵庫県教育委員会・尼崎市内の高等学校
本学：園田学園女子大学全学部

園田学園女子大学では、兵庫県教育委員会あるいは尼崎市内の高等学校と提携し、様々な高大連携事業を展開しています。県立武庫荘総合高校とのカレッジライフウィーク、インターネットを利用したe-learningによる授業、本学の教員が直接高校へ出向いて授業を行う出前講座などを実施しています。これらの事業は、高校生が将来の自分を考え、進路を選択するための動機付けとして大きな役割を果たしています。

■カレッジライフウィーク

毎年夏休みに県立武庫荘総合高校の1年生全員を迎え、実際に大学の授業を受講してもらうという全国でも例を見ないユニークなプログラムです。分野で区切られた50講座程度を開講し、生徒自身がそれぞれ興味のある授業を選択、時間割に従って授業を受けます。授業の空き時間には大学図書館を利用したり、教員の研究室を訪問したり、お昼ご飯や休憩時間に学生食堂を利用するなどして大学生活を体験しています。



■e-learningを活用した授業

兵庫県教育委員会と本学の間で協定を結び、県内の高校教育の活性化を図るため、授業科目の一部を高大連携科目として公開しています。

本学では、県内で唯一e-learningを用いた高大連携を実施しており、平成20年度は、「プログラミングの基礎」「源氏物語の世界」などの授業科目を公開し、多くの高校生が受講しています。

修了後は、高等学校で単位が認定されると同時に、本学へ入学した場合、所定の手続きを経て、入学前の既修得単位として単位を認定することもあります。



スクールボランティア活動

連携先：兵庫県や大阪府内の公立小学校、中学校
本学：教職を目指す学生

近年、教職を目指す学生が大学の近隣の公立小学校や中学校で、スクールボランティアを行う機会が多くなっています。それは学生にとって教育現場の実態を肌で認識する良い機会となり、教職へのモチベーションをより高めます。また、多様化する教育ニーズに直面している学校にとっても、即戦力になる教員を受け入れたいとの思いがあるようです。未来の教員と学校が教職のコラボレーションをこのような形で行うことは、児童生徒にとっても良い影響を与えていると考えられます。

■スクールボランティアの活動

本学では、教職を目指す学生たちにスクールボランティア活動を奨励しています。平成18年度より3年間で、約100名の学生がこの活動に参加しました。スクールボランティアは教員の補佐として、さまざまな活動に取り組んでいます。授業の補助、保健室の補佐、特別支援教育の補助、クラブ活動の補助、校外活動の補助など、活動は実に多様です。左の写真は授業中の補助場面です。児童一人ひとりに優しく声をかけ、学習を支援しているところです。このような活動は学生にとって、教育現場の実態を肌で実感する良い機会となり、教職へのモチベーションを高めます。



■放課後学習の支援

左の写真は放課後学習での場面です。スクールボランティアの学生が児童の質問に丁寧に答えているところです。このような放課後学習の後、スクールボランティアの学生と児童が教室だけでなくグラウンドや体育館で遊ぶことが多いようです。このようにして、学生と児童との間の信頼関係が深まっていきます。



庄下川アメニティプロジェクト

本学：人間健康学部総合健康学科 衣笠ゼミ

近年、持続可能な社会のための環境保全運動が進められる中、我々でできる親水性の向上をめざし、「庄下川アメニティプロジェクト」を立ち上げています。ゼミの研究テーマである水質検査に留まらず、職員や学生ボランティアによる清掃活動、生物や植物の観察、市の施策に対する勉強会などを行い、ニュースレター「庄下川アメニティプロジェクト通信」で紹介しています。水質に関する研究活動を地域に広報することで、庄下川への理解を深め、川をより身近に感じてもらいたいと考えています。

■職員や学生ボランティアによる清掃活動

不定期に職員・学生ボランティアを集い、昼休みの1時間ほどを利用して庄下川の清掃活動を行っています。さまざまな市民ボランティアによる清掃活動も行なわれていますが、川の中に入るとたくさんのゴミが見つかります。学生たちは水に触れながら清掃活動を楽しんでいます。



■毎週行っている定点観測

毎週金曜午後に、本学付近の生嶋橋、上生嶋橋、東川端橋の橋上から採水し、水質検査を行っています。検査項目は、気温、水温、pH、DO、COD、BODです。庄下川のBODは季節を通じて1~4.5mg/lであり、環境基準に適合していませんが、1日のpHの変動が大きく、昼間はpH10になることもあります。採水や測定中に、散歩中の地域の方に水質について質問されることもしばしばです。



■水辺の生き物たち

庄下川にはハヤやハゼ類、なまず、シマヘビ、カメなどが生息しています。天気の良い日にはカメの甲羅干しを見かけることもあります。また、コサギ、アオサギ、オンドリ、カルガモなどの鳥類もいます。川辺を散歩するだけでもたくさんの植物や小動物と出会うことができます。



水辺まつりの企画・運営

連携先：水辺まつり実行委員会

本学：「生涯学習論」受講生、ダンス部、尼崎研究会

水辺まつりは、猪名川・藻川の清流復元をめざし、人々が川辺に集い、子どもも大人も一緒に川で遊ぶことで、川と人との関わりを考えるイベントです。平成16年から毎年9月に開催され、親子連れを中心に4000人もの人々にぎわいます。本学の学生・教員有志が、平成18年度より水辺まつり実行委員会に参加し、まつりの企画・運営を行っています。川の環境保全や防災について話し合う水辺フォーラムも年に1回開催され、本学の学生・教員が参加しています。

■水辺まつり

現代の都市部の川は、危険で汚れた環境として、私たちにとって疎遠な存在になっています。しかし、近年では川の水質はかなり改善され、水辺は、私たちが生き物と触れ、遊び楽しむことができる場として復活しつつあります。このまつりは、川から離れてしまった子どもたちを川に呼び戻し、大人も童心に返り川との関係を取り戻すためのイベントです。カヌーや葦舟などの乗船体験、魚捕り、フリーマーケット、工作、コンサート、紙芝居など様々な催しが行われます。



本学で開講している科目「生涯学習論」では、授業内容と関連する地域活動への参加を学生に奨励しています。その一環として水辺まつりに参加、学生たちは子どもたちにナマズの帽子づくりを楽しんでもらうブースを担当しました。また、ダンス部の学生は、ステージでジャズダンスや「なまずダンス」を披露しました。



■水辺フォーラム

まつりと同様、猪名川・藻川の清流復元をめざすフォーラムです。平成19年・20年には、川の「環境」（浄化の方法、環境学習等）と「防災」（河道や堤防の整備、水害情報の伝達法等）の両面から、私たちに何ができるのかについて活発な議論が交わされました。



地域のパートナー「まちの保健室」

連携先：尼崎市、医師会、地域包括支援センター、看護協会など
本学：人間健康学部人間看護学科の教員および学生

「まちの保健室」は、地域の人々が様々な不安や悩みを気軽に相談できる看護提供システムです。人間看護学科では大学を拠点としながら、地域へ出向いて「まちの保健室」を開催しています。地域団体・組織と連携、協働しながら地元密着型の気軽な健康相談の場として「まちの保健室」を住民に提供し、さらに教育環境として活用しています。住民や地域組織・団体とパートナーシップを深めることで、ヘルスプロモーションの推進と地域力の向上をめざしています。



■「まちの保健室」設置の経緯と内容

看護の社会化に応え、住民の健康生活支援の場として、さらに現代の社会情勢に対応する看護職育成のために、平成18年6月より園田キャンパス「まちの保健室」を開設しました。尼崎市の地域特性を考慮し、地域組織と協働しながら住民のニーズに合わせた活動を展開しています。



■活動の成果

大学を拠点とした定例の「まちの保健室」を週に1回開催し、多くの住民の方々に利用していただいています。また、地域住民や団体の依頼に応え、「出前型」として尼崎市内で広く活動しています。特に出前型は、尼崎市や尼崎市医師会、兵庫県看護協会、尼崎北ライオンズクラブ、尼崎市地域包括支援センター、地域推進委員会などと協働で展開し、マタニティセミナーから子育て相談、健康相談、介護予防教室まで、あらゆるライフサイクルの方々の健康づくりをめざしています。平成20年度は20回の出前型を開催し、地域組織や団体との連携を深めています。



■これからの展望

これからもさまざまな地域組織・団体との連携・協働により、地域住民の健康生活を支援する環境づくり～健康を支援するネットワークづくり～を行い、ヘルスプロモーションの推進・地域力の向上をめざします。



リーフレットを利用した健康づくり

連携先：財団法人尼崎地域・産業活性化機構
本学：人間健康学部食物栄養学科2年次生



管理栄養士をめざす学生たちが、季節に応じた健康づくりと食に関する情報を掲載したリーフレットを作成しています。この取り組みは、学生たちが学んだ知識をわかりやすく表現し、外部へ発信していく貴重な機会となっています。地域の方々に何を伝えたいのか、どのように表現すれば理解が得られるのかを考えながら作成していきます。少しでも地域に健康づくりが根付くことをめざし、クラス全員で考えぬき、評価を重ねながら仕上げていく過程は、まさに「生きた学習の場」となっています。地域の方々からご指導いただき、それを教育に反映させ、管理栄養士として社会に貢献できる人材を養成したいと考えています。

5・5フェスタにおける食育の取り組み

連携先：芦屋市青少年センター
本学：人間健康学部食物栄養学科 松葉ゼミ



■チャレンジ餅作り! 作って食べて食育の向上を

芦屋市では毎年5月5日に、子供と親との係わりを深め、子供の健康・運動を促進する事業が、体育協会・子ども会連絡協議会の主催のもと開催されます。内容は、バルーンアート・昆虫すくいなど子供の喜ぶブース、おりがみ・おはじきなど昔ながらの遊びのブースで、「食」に関する企画はありませんでした。そのため、当ゼミでは食意識を高めることを目的として、参加した親子に対して食生活に関するアンケート調査および餅づくりの体験を実施しました。アンケートから、子どもも親も、平成17年度国民栄養調査結果よりも食意識が高いことがわかりました。今後とも継続的な働きかけが必要であることがわかり、食育に関する支援の重要性を改めて認識しています。

地域に支えられる国際交流

連携先：カンタベリー大学、クイーンズランド工科大学、南太平洋大学、開南大学ほか
本学：教育研究企画部

本学は、昭和60年代よりオセアニア地域の大学と学術協定を締結し、国際交流の礎を築いてきました。近年では、中国、韓国、台湾、インドネシアの大学とも提携を結び学生の交換を行うほか、それらの地域からの留学生の受入れを行うなど、アジア地域との交流にも力を注いでいます。本学は、これらの留学生や国際交流に興味をもつ日本人学生に対し、地域における国際交流の機会を積極的に提供しています。園田の国際交流が、教育・研究はもとより、地域社会の発展に資することを願っています。



■市内小学校における国際理解教育

本学には毎年12月に、オセアニア地域の学術提携校から10数名の短期交換留学生が研修プログラムに参加するため来日します。留学生たちは、約4週間の滞在期間中、日本語・日本文化の研修授業に参加する他、地域の小学校を訪問して子どもたちと交流し、日本の小学校教育の実態を学びます。子どもたちが興味を持ちやすいように、外国の子どもの遊び・歌や踊りを体験してもらうことにより、国際理解を深めます。



■地域における国際交流活動

本学が海外学術提携校から受け入れる交換留学生たちのほとんどが、日本滞在中、ホームステイを体験します。特にオセアニアからの短期交換留学生は、尼崎市を中心とした阪神地域、そして但馬地域（豊岡市、新温泉町、香美町）に滞在し、自然環境や生活スタイル等の違いを学びます。ホストファミリーの皆さまには学内の学習では得ることが出来ない、日本の家族との貴重な生活体験の機会を提供していただいています。



国際交流事業

連携先：尼崎市国際交流協会
本学：教育研究企画部

尼崎市国際交流協会は、市内在住の外国人や団体との交流を通して、国際間の相互理解を促進することを目的に、多様な事業を実施されています。本学はその活動に積極的に協力することにより、留学生を含む学生たちが地域の人々と交流する多くの機会を得ています。特に協会事業の交流部門は、「国際交流サロン」、「ワンテーツアー」そして「国際交流イベント」など協会会員の皆さんが中心となって実施されているものですが、今後も共に活動を進めていくことで、お互いの国際交流事業がさらに発展することと信じています。



■尼崎市国際交流協会との協力事業

多様な事業を行う協会の活動に対し、本学は積極的に参加協力をしています。多文化理解を目的とした協会主催のイベントステージなどに本学学生が参加し、若い力と華を添えています。留学生は、協会会員ボランティアの皆さんから日本語や日本文化を学ぶ良い機会を頂いています。平成17年度には、協会主催の「日本語スピーチコンテスト」（第1回）が本学会場で行われ、本学の留学生はもちろん、学生同好会がアトラクションで参加しました。平成21年2月にはスピーチコンテストが再び本学で実施されます。



■地域国際交流イベントへの協力

協会主催の国際交流イベント「多文化ふれあいデー」が、地域商業施設の屋外広場で開催されました。本学は協賛として、企画・運営やステージ・パフォーマンスなどに協力しました（平成16～19年度）。多彩な出演グループで盛り上がるステージや地域団体による屋台などは、地域の人々の関心呼び、楽しく多文化に触れる機会となりました。そんな中、本学の学生たちは運営ボランティアとして一日中飛び回る忙しさで働き、貴重な地域活動を体験することができました。



園田学園テニスカレッジ

本学：総合生涯学習センター、テニス部

■園田学園といえば、テニスです！

「早朝テニス」として始まったテニス教室が、地域の皆様に育てられ「園田学園テニスカレッジ」となり、30余年が経ちました。現在5歳～80歳の受講生の方々が生涯スポーツとして、体力アップや健康増進のため、テニスを楽しんでおられます。ジュニアクラスでは、世界基準のテニスプレーヤーの育成・強化に力を注ぎ、ジュニアテニス普及活動の一貫としてテニス大会を開催しています。今後は、テニスクリニックを通して、テニス名門校としての経験を活かしたレッスンを多くの方にチャレンジしていただけるように、知恵を絞っていききたいと思います。



ソフトボール教室

連携先：尼崎ソフトボール協会、京都府中体連、県立但馬ドーム他
本学：ソフトボール部

■スポーツの楽しさを伝えたい

ソフトボール部は毎年、各地域でのソフトボール教室を数回行っています。京都府中体連では300人以上の中学生を、尼崎ソフトボール協会では小中学生を対象に実施しています。但馬地域では、県立但馬ドームと共催している教室が10周年を迎えました。それぞれの地域の子供達やソフトボールが好きな方々と交流を深めながら、スポーツの楽しさや喜びをお互いに感じています。一緒に汗を流して、スポーツに親しんでいただきたいと思います。また、学生にとって、指導やコミュニケーションの難しさを経験することは、社会人としての力を養うことができる貴重な機会です。



エイズを通じて生と性を考える

連携先：尼崎市保健所
本学：人間健康学部総合健康学科

2008世界エイズデーにあわせ、平成20年11月22日に本学で「エイズを通じて生と性を考える」と題した講演・パネルディスカッションを開催した。企画段階から保健所保健師・学科教員と共に学生が参加し、学習会を重ねた。講師はBase kobe代表繁内幸治氏、パネリストはHIV陽性者はんき一氏、保健師浦川文恵氏、本学科講師林照子氏を招いた。学生、一般、保健所や学校関係者ら約300名が熱心に参加した。同期間に、関連写真や大学生のエイズ意識調査結果、学科卒業生の論文抄録5編を展示した。

■総合健康学科学生有志が学習・企画に参加

尼崎市保健所の保健師と、エイズの現状について学ぶ企画・学習会を持ち、総合健康学科学生有志9名が教員とともに参加しました。その学習をもとに、講演のサブテーマ「エイズに学ぶ ～「他人事」じゃなく「共生」の理解へ～」を決定し、抄録表紙も学生が作画しました。



■講演・パネルディスカッション

保健師と連絡を密に取りながら企画・運営をすすめ、エイズに深く関わっている方々を講師・パネリストに招聘することができました。また、保健所および学科からそれぞれパネリストを出し、それぞれの立場から語る場となりました。運営には多くの学生が活躍しました。



■写真パネル・論文ポスターの発表

約1週間展示を実施しました。HIV/AIDSに関する豊富な写真資料から、世界の状況を知ることができました。また、学科卒業生のエイズに関する卒論5編の抄録を展示し、養護教諭や健康についての専門家を目指す総健学生の取り組みを紹介しました。共同で事前実施した学生の意識調査結果も発表しました。



創作和菓子「橘の玉依姫」を考案！

連携先：尼崎市 立花商店街 御菓子司 旭日堂本店
本学：生活文化学科 国際食文化コース・情報メディアコース

生活文化学科では、平成16年7月に商店街活性化を目的として、和菓子「橘の玉依姫（たちばなのたまよりひめ）」を御菓子司旭日堂本店と共同開発しました。和菓子そのものは国際食文化コースの学生が、パッケージデザインは情報メディアコースの学生が考案しました。尼の生揚げ油が塗られた皮に包まれたチーズと白あんととのハーモニーは、老若男女を問わず好評です。現在、橘の玉依姫は御菓子司旭日堂本店（尼崎市立花町1の5の11）にて販売中です。

■ほのかな酸味と甘みの調和！

この事業は、商店街活性化を目的とした、本学と立花商店街振興組合、街づくりグループHappy Actionとの協働プロジェクトです。おやつ感覚で楽しめ、尼崎の物産を使用し、新しい味で名物になるものというコンセプトで和菓子を開発しました。皮には尼崎で生産されている尼の生揚げ油を塗り、中のあんはチーズと白あんをベースにしています。現在は、チーズにチョコ、ミカン、リンゴのいずれかが混ぜられた商品があり、1個126円で販売されています。「やみつきになる味」と好評です。



■イメージをデザインに！情報メディアコース

「橘の玉依姫」という商品名は、立花がかつてみかんの生産地であったため「橘」、立花商店街に近い水堂須佐男神社の古墳で発見された鏡・短剣・珠より「玉」、この和菓子を開発するのが本学学生であるため「姫」、より名づけました。橘の玉依姫のデザインについては、何度も垣東ゼミ内で話し合いを重ね、「橘」からみかん色、「玉」から泡、「姫」からお姫様をイメージしてデザインすることにしました。コンピュータを駆使し、学生の感性で柔らかく優しい和風のテストで、和菓子の包み紙と由来書を作成しました。

尼崎市尾浜地区の活性化

連携先：尾浜地区県民交流広場地域推進委員会事務局
本学：生活文化学科情報メディアコース 磯林ゼミ



■地域通貨「おう」で尾浜地区の町おこし！

平成18年6月に地域通貨「おう」の発行とともに、われわれのゼミでも尾浜地区の活性化事業に参画することになりました。事務局の支援と事業の展開を主な活動としてしています。19年には県の県民交流広場事業の補助対象に選ばれ、活動が一気に盛り上がりました。尾浜商店街の中心にある御園会館を活動拠点として、名和夏まつり・パソコン入門講座・着付け教室・幼児ふれあい広場・高齢者ふれあい喫茶などの事業、グアム島サンタ・リタ地域との交流、「名月姫カレンダー」の作成等の企画および事業展開を担当しています。

尼崎あきんど倶楽部との連携

連携先：尼崎あきんど倶楽部、尼崎北ロータリークラブ
本学：けやき祭実行委員会、インターアクトクラブほか



■地域密着型の学園祭を目指して

尼崎あきんど倶楽部は、尼崎商工会議所の呼びかけで創立13年目を迎えた異業種交流グループです。会員数は約130名。毎年けやき祭実行委員長が同倶楽部の会議で呼びかけ、けやき祭の模擬店やパンフレット広告、野外イベントなどに多くの会員に参加いただいています。

■25年目の地域ボランティア

尼崎北ロータリークラブの提唱で、25年前に剣道部1・2年生からなるインターアクトクラブが設立されました。学内での献血活動など各種地域ボランティアを行い、奉仕のこころを学んでいます。平成20年11月には、同クラブ系列3団体による剣道交流会が行われました。